



内田直之が考えたこと

How did you know CHIYODA?

意外と知らない 千代田区のこと。



人口は60,000人を突破!

私たちが暮らす千代田区は、江戸幕府開府以来400年にわたり日本の政治、経済、文化の中心として栄えてきました。明治に入り首都東京が誕生すると、明治11年には千代田区の前身である麹町区と神田区が誕生し昭和22年には2区が合併し、千代田区が誕生し現在に至っています。70年目を迎える千代田区も、人口は6万人を突破しました。

千代田区民ってどこに住んでいるの?

千代田区は、麹町地域に麹町・富士見、神田地域に神保町・神田公園・万世橋・和泉橋と計6つの行政地区に分かれています。区内の人口分布を見てみますと、ちょうど麹町地域と神田地域が半分ずつとなっています。地区別では麹町地区が圧倒的に多く、和泉橋地区が急激に伸びています。

千代田区民年代別構成

18・19才	1.4%
20才代	11.0%
30才代	19.9%
40才代	21.7%
50才代	15.8%
60才代	17.6%
70才以上	12.0%
無回答	0.6%

年代別では、上のグラフの様に、30代、40代、50代で約57%を占めています。家族の人数では、3人が最も多く、4人、2人と続いています。他区の方から、「千代田区民はどこに住んでいるの?」などと質問されることが良くあります。8割がマンション住民と言われているが、戸建て住宅にお住まいの方が7.7%、また、所有ビルにお住まいの方が12.6%と言うのが千代田区らしいと思います。

また、千代田区にお住まいになった年数を見ますと、9年未満の「短期居住者」が51.2%、30年以上の「長期居住者」は26.5%であり、そのうち生まれてからずっとお住まいの方は、12.5%でした。地区別に見ますと、「短期居住者」は富士見地区が最も多く52.7%に対し、最も少ない万世橋地区では43.4%でした。

町会や地域活動に参加していますか?

全国に30万位あると言われている町会・自治会では、存続の危機が叫ばれています。千代田区には108の町会があります。町会の人口規模を比較しますと、最も多い一番町町会の3,326人から、最も少ない神田佐久間町町会の26人と、130倍もの規模の違いがあります。また、町会や地域活動に「良く参加している」は10.4%、「何回か参加した」を含めても29.5%に留まっています。特に人口の半数以上を占める短期居住者では、「良く参加している」は1.9%しかありません。いわゆる新住民と呼ばれる方々が、町会や地域活動に参画してもらえていないことが良く分かります。

一方では、この問題にしっかり取り組み、成果をあげている町会もあります。例えば、錦町三丁目第一町会（堀井市郎会長）では、町会員が激減する中、新たなマンションの住民の方々に細やかにお声をかけ、神田祭を始め、アート縁日や流しそうめん、隣人祭、新年会などのイベントを通じて、新旧住民協働で新しい町会の形を創られています。地域コミュニティの中核を担う町会が持続していくには、このように、地域を支えてきた住民と新たな住民や在勤者が、お互いの価値観を認め、地域を愛する気持ちを共有することが大切だと思います。

どんな施策や施設を望んでいますか?

●千代田区民が望んでいる「施策Best3」

1. 環境対策(緑化の推進や路上喫煙対策など)
2. 高齢者施策(在宅介護サービスや一人暮らしの見守り支援)
3. 防災対策(災害に強いまちづくりや避難所機能の充実)

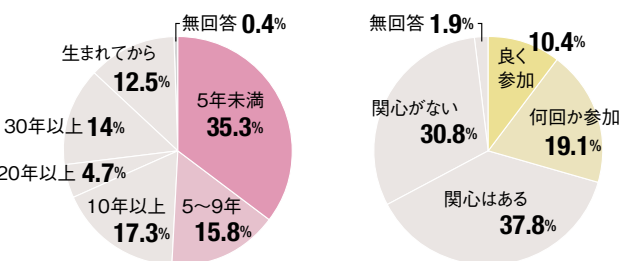
●千代田区民が望んでいる「施設Best3」

1. 高齢者福祉施設(特養ホームや老人保健施設など)
2. 公園・児童遊園(公園・児童遊園・広場など)
3. スポーツ施設(体育館・プールなど)

高齢者福祉施設の具体的な動きとしては、二番町の国有地を利用した施設が新たに整備されています。また、公園では東郷元帥記念公園の改修整備が検討されています。私は再開発を行う場合、既存の空間は守りつつ、集積によって生まれた新たな空間を、緑豊かな憩いの場にできれば良いと思っています。スポーツ施設の中心である千代田区スポーツセンターの整備は、いまだに区の方針は固まっていますが、私は、現実的な対応として現地に立替えを行い、将来的には麹町地区にも整備し2施設体制が望ましいと考えています。

今回から新たに「民泊」についても調査が行われました。私は議会にて、民泊への規制緩和には慎重な対応を求めてきました。調査結果でも、「家主や管理者が不在の民泊は認めない」が69.7%にも及んでいます。民意もしっかり確認できましたので、引き続き、実態の把握と厳しい規制を求めて行きたいと思っています。

千代田区民居住年数 町会や地域活動への参加状況



これらのデータは、千代田区政策経営部による「千代田区民世論調査」より抜粋しました。195ページにも及び、区民の皆様の声がぎっしり詰まっています。私は、この貴重なデータを元に、地域の実態と整合を図ることで具体的な区民ニーズを把握し、議会を通じて区政に反映させてまいります。

Sense

世界の街歩き

ロンドン

(グレートブリテン及びアイルランド連合王国)



人口 867万人
面積 1,577km²
立憲君主制

2013年、世界の都市総合ランキングのトップであるロンドンを再訪しました。ご存の通りイギリスは連合王国であり、イングランド、スコットランド、

ウェールズ、北アイルランドの4つの非独立国から構成される立憲君主制の国家です。サッカーWカップに4つの代表が出場することは有名です。ロンドン市街は、ウェストミンスター宮殿やセントポール大聖堂などの歴史的建築が数多く残る、典型的な欧州の伝統的都市をイメージしていました。しかし実際に行ってみると、現代建築の宝庫であり、中心地には欧州で最も高い310mの「ザ・シャード」を始め、「30セント・メリー・アクス」や「タワー42」など多くの超高層ビルが建っていました。更には、「ロイズ・オブ・ロンドン」や

「ロンドン市庁舎」などモダンな建物も多く、ゴシック様式の歴史的な建築と、著名建築家によるモダンな現代建築が上手く共存、調和していました。ちなみにロンドンは、容積率制度を撤廃しています。都市の機能更新を図り発展を続けるロンドンには、これからオリンピックを迎える東京、そして千代田区にとって参考とすべき点が多々あると思います。EU離脱が都市力にどう影響するのか、これからはロンドンには、注視したいと思います。



ンミーティングを開催します。皆さまのご参加を、心よりお待ちしております! (案内同封)



防災訓練でHUGを実施!

先日、避難所防災訓練の一環として、災害図上訓練のHUGが試験的に実施されました。私は平成28年の第2回定例会にて、地域防災訓練にHUGの試験的導入を提言していました。HUGとは住民が避難所運営を主体的に考えるための図上訓練であり、避難所で起こる様々な出来事にどう対応していくかを模擬体験するゲームです。コミュニティの形成や人材育成にも貢献できるHUGを、是非、本格導入できるよう引き続き、推進して行きたいと思っています。

Study 内田直之が学んだこと

区政報告会2016を開催!

バルサル神田にて、区政報告会を開催致しました。税金の使われ方や財政状況、重要課題として待機児童対策、こどもの遊び場整備、スポーツ環境整備等についてお話をさせて頂きました。また、特別講演として、バルセロナ五輪柔道金メダリストの古賀稔彦様から「夢の実現」をテーマにお話を頂きました。丸川珠代大臣、中川雅治議員、山田美樹議員、また、多くの都議会、区議会の皆様からも温かいご激励を頂きました。次回はタウンミーティングを開催します。皆さまのご参加を、心よりお待ちしております! (案内同封)



Action

Sense

「千代田区の環境政策」「地域特性を踏まえたZEBの提案」「路上障害物対策」について、質問を行いました。

1.持続可能な環境未来都市の実現

【問題の背景】 アメリカの航空宇宙局(NASA)と海洋大気局(NOAA)は、昨年7月の世界の平均気温が、観測史上最も暑い月であったと発表しました。平均気温の上昇と異常気象の発生頻度の関係性から、科学者たちの多くはこの気温上昇を地球温暖化と関連づけています。昨今の地球は氷河の減少やサンゴの白化、身近なところでは記録的な超大型台風や洪水を経験してきました。

2011年に政府より新たに選定された「環境未来都市」とは、環境だけではなく、経済、社会の3つの価値を創造することで「誰もが暮らしたいまち」「誰もが活力あるまち」の実現を目指した先導的なプロジェクトに取り組んでいる都市・地域です。

世界的に進む都市化を見据え、環境や高齢化対応などの課題に対応しつつ、持続可能な経済社会システムを持ったまちづくりを目指す環境未来都市構想のコンセプトは、都心に位置し、活発な経済活動で東京を牽引する千代田区のまちづくりに即した考えではないかと思えます。

【質問】

千代田区の地域特性や役割を考えた場合、環境に加え、経済、社会の3つの価値を創造し、持続可能な経済社会の実現を目指すべきと考える。

【区(執行機関)の答弁】

この千代田区という地域の位置づけは、我が国の政治経済の中心地である。そして活発な都市活動が行われており、その都市活動の中には、まちの更新も含まれている。私たちは、できるだけエネルギーの消費を少なくし、率先して低炭素社会に向けて取り組み、姿勢を示し、行動するべきと思う。千代田区としても「環境・超高齢化対応等に向けた、人間中心の新たな価値を創造する都市」を基本コンセプトとする環境未来都市の構想も意識しながら、環境、社会、経済の3つの側面にすぐれた持続可能な都市の実現に向けて地球温暖化対策を進めていく。

2.現実的な対策としてのnZEB

【問題の背景】 ZEBとは、ネット・ゼロ・エネルギー・ビル の略称であり、年間のエネルギー消費量をゼロまたは概ねゼロとする建築物のことです。政府が策定したエネルギー基本計画において、ビル等の建築物については、2020年までに新築公共建築物、2030年までに新築建築物の平均でZEBを実現することを目指しており、世界的にも同様の取り組みが進んでいます。

一方、千代田区のような都心部では創エネルギーにおいて太陽光発電などの再生可能エネルギーでは補い切れず、エネルギー収支をゼロにすることは大変困難です。千代田区 の地域特性からZEBに限りなく近いニアリー・ゼロ・エネルギー・ビル(75%以上省エネ)が現実的な要求レベルとしては良いと思えます。



活動フォトギャラリー



●南阿蘇崩落現場視察



●レイモンド展視察



●千代田区サッカー大会 2016



●オールブラックスラグビー教室



●東京・台北ろう学校生交流作品展

【質問】

千代田区の環境政策における最優先テーマは建物のエネルギー対策の推進である。エネルギー基本計画にのっとりZEBを推進していく中で、地域特性も踏まえた現実的な対応としてニアリーZEBも検討すべきと考える。

【区(執行機関)の答弁】

エネルギー対策は、ほとんどを民間にお願いしているが、行政もしっかり取り組まなければならない。その為、役所の建築物についてはできるだけ省エネあるいは低炭素という建築物を構築することを行っている。千代田区のように敷地が狭く建物が集積している条件のもとでZEB施設を建設するには厳しいハードルがある。現在そうした諸条件を踏まえて庁内で検討しているが、議員ご指摘のニアリーZEBについても選択肢に加えて検討していきたい。

3.「ちよだエコセンター」の整備状況

【問題の背景】 平成27年の定例会で、千代田区地球温暖化対策、地域推進計画にZEBモデル施設の設置を位置づけるとご答弁を頂いています。基本計画である「ちよだみらいプロジェクト」にも、環境活動を促進する拠点として「ちよだエコセンター」を整備すると明記してあります。

この施設は区内に点在する活動拠点を集約化することで、環境にかかわる人・物・情報などのネットワーク化を図るとともに、包括的な環境活動の拠点とすることや、環境モデル都市である千代田区がトッランナーとして、新技術を駆使した次世代型モデルビルであるZEBを通じ、低炭素化の促進を内外にアピールするとされています。環境活動拠点の集約化と環境メッセージの発信という重要な役割を担う「ちよだエコセンター」をの整備は責任を持って計画どおり推進して頂きたいと思えます。

【質問】

ちよだみらいプロジェクトや地球温暖化対策等にて明記されている「ちよだエコセンター」の整備状況について、具体的な技術や課題は整理されているのか。

【区(執行機関)の答弁】

「ちよだエコセンター」の整備状況について、現在、環境関連団体等からの意見聴取を踏まえ、基本構想のたたき台を整理しているところである。ZEB施設の建設に当たっては、日照条件等を含めた施設周辺の環境が大きく影響する。こうした諸条件を前提に区全体の行政需要も考慮した上で区有地の中から建設候補地を選定することになる。現在、検討には時間が掛っている状況であるが、エコセンターの整備に当たり、ZEBモデル施設を整備する基本的な考え方に変わりはない。現実的な対応も視野に入れながら検討していきたいと考えている。

4.実効性のある路上障害物対策

【問題の背景】 公共の場所である路上に設置、放置されている置き看板や商品陳列台などの不法占用物は住民や車両の通行に支障を及ぼしています。まち並みの美観を阻害し、

千代田コラム

東京ルーテルセンタービル

東京大神宮の少し先に見える清楚な建物が、東京ルーテルセンタービルです。戦前、日本神学校という、キリスト教の牧師を養成する学校として建てられたものです。日建設計の創業者のひとりであり、住友本社ビルなどで知られる長谷部鋭吉により昭和12年(1937年)に竣工されました。

地上4階、地下1階で2つの塔屋を持った鉄骨鉄筋コンクリート造で、白い櫛形仕上げの外観に、丸い窓やアーチ窓、小さな開口が並んだファザードが特徴的です。2階には、東京ルーテルセンター教会が併設され、今もオフィスビルとして活用されています。この建物は「東京都選定歴史的建造物」に指定され、富士見町のランドマーク的存在となっています。ちなみに、千代田区には他にも、いせ源や神田まつやなどが指定されています。

このような歴史的建築物をしっかりと保存・活用し、都市の機能更新を図ることは大変難しいと思います。しかし、千代田区の歴史と伝統を守りながら、環境に配慮されたまちづくりを、次世代へとつなげて行くことが、私たちの使命ではないかと感じました。



防災や安全上の問題も懸念されています。中でも、神田地域では商業地域と居住空間が隣接、混在しており、生活圏内における路上看板には風俗系など教育上好ましくないものも散見されます。

路上喫煙対策が一定の成果を上げている一方、路上障害物の対策では期待された成果は得られていません。行政組織として機能的な体制なのか、効果的な連携はできているのか、そもそも対策に実効性はあるのか等々疑問もあります。私は、生活環境条例の運用による注意、指導だけではなく、道路法や道路交通法、屋外広告物条例などを的確に運用し、撤去等によって路上障害物対策の実効性を確保すべきであると考えます。

【質問】

悪質な路上障害物や防災上または青少年の健全育成上、問題と思われる看板を撤去できるよう施策の再構築について、見解を問う。

【区(執行機関)の答弁】

千代田区では生活環境条例の中で路上障害物対策の一元化を図ってきた。これまで違法な置き看板等に対する警告の中で、道路法、道路交通法、屋外広告物条例に反するとして除去等の措置や罰則適用を示唆してきたが、実際にはチラシ等の張り紙や捨て看板等、屋外広告物条例に基づき簡易な手続で即時除却できるものを除き、具体的な措置をとって来なかった経緯がある。

このたび改正道路法が施行され、23区においても、路上障害物に対する実効的な措置が検討されると聞いている。こうした動きを踏まえ、区としては、庁内関係各課が緊密に連携し、交通管理者である警察、地域で活動する団体等の方々とともに、実効性のある路上障害物対策に取り組んでいく。

5.エリマネにおける路上障害物対策

【問題の背景】 生活環境にかかわる課題は路上障害物だけではなく、客引き、防犯、放置自転車など多様であり、今後は参加者の裾野を広げ、運営経費も含めた持続可能な取り組みが必要です。地域の経営としてのエリマネメントの中に生活環境改善の取り組みを位置づけるべきであり、道路協力団体制度の活用についても検討すべきではないかと思えます。

【質問】

地域の経営として、持続可能な取り組みが地域とともにできるようなエリマネメントにおける路上障害物対策の連携・推進を提案する。

【区(執行機関)の答弁】

千代田区は個性ある多様な地域で構成されており、路上障害物についても、画一的な運用では実効性ある対応はできない。地域の合意を図りながら進めていくことや、地域、商店街、学校関係者等の制約条件を補いながら活動を持続可能にしていく必要もある。

道路法改正では新たに道路協力団体の制度が創設された。これは道路の清掃やアダプト等を手がけるボランティア団体などを道路協力団体に指定する一方で、オープンカフェなどの収益活動で維持管理の原資を捻出しやすくなるように道路の占用許可の手続を簡略化するものである。まさに地域経営の観点から活動するエリマネメントと軌を一にするものと言える。

路上障害物対策についても、エリマネメントの中でどのように位置づけられるか、早急に検討していく。



街づくりへ、プロの視点。

内田直之(うちだ なおゆき)

1964年、熊本市生まれ B型。
1984年国立有明高専建築学科を卒業、トステム株式会社(現LIXIL)入社。総合企画室主任、海外赴任(バンコク)を経て商品企画室長となり、主力商品の経営戦略・商品戦略、多くの開発プロジェクトに携わる。働きながら明治大学公共政策大学院を修了。2011年より千代田区議会議員。一級建築士。

●学歴
国立有明高専建築学科 卒業
明治大学公共政策大学院 修了

●職歴
トステム株式会社(現LIXIL) 25年間勤務

●所属団体
千代田区 サッカー協会 会長
千代田区 軟式野球連盟 顧問
千代田区 相撲連盟 顧問
明治大学 校友会千代田区地域支部 副支部長
明治大学 危機管理・コミュニティ持続研究C 客員研究員
社団法人 東京建築士会
NPO法人 Football Community 千代田 顧問
NPO法人 電線のない街づくり支援ネットワーク
NPO法人 神田学会

内田直之事務所
〒101-0065千代田区西神田3-5-3 2212
Tel/Fax 03-5212-5222
Web www.uchidanaoyuki.com
e-mail uchida@tcn-catv.ne.jp